

官民競争入札等監理委員会 発言メモ

福嶋浩彦

1. 市民の公共をつくる

「公共」は市民の社会的活動の総体

★従来の公共 公共=官の思想。民は官の下請けで公共を担う。〈官が支配する公共〉

☆新しい公共 市民自治を理念。「市民の自立した活動」と「主権者市民のコントロールの下にある行政」が連携して公共をつくる。〈市民が主体者の公共〉

* 「市民の自立した活動」は、ボランティア団体、NPO、協同組合、企業など様々な組織をつくって行う。しかし、主体は組織ではなく市民一人ひとり。

* 行政は、市民の自立した活動の下支えと公共全体のコーディネートに責任を持つ。

2. 「官」から「民」への視点

★従来は行政の都合(コスト削減)で公共サービスを民間へ

☆これからは、質を中心に考える

我孫子市提案型公共サービス民営化制度

市の全ての事務・事業(約1100)の業務内容や今後の計画、人件費を含む総コスト等を公開。民間(企業、NPO等)から「この仕事は市役所がやるより自分がやったほうが、市民のためにもっと良いサービスを提供できる」という提案を公募。

応募のあったものを、行政、専門家、受益者市民で「市民の利益」を基準に審査。

* 「行政が出したいもの」ではなく、「民間がやりたいもの」をきちんとテーブルに乗せる。

* 民か官かを机上だけで考えていても有効ではない。

◎ 常に民と官の分担を見直す。成り行きに任せると、行政は既存の公共サービスを非効率な方法でやり方続ける。新しく必要な公共サービスは放置か、民に丸投げに。

◎ 民も官も改革しながら、連携することが大切。

3. 民の主体を皆で育て豊かにし、公共を充実させる

・ 少子高齢社会、地球環境、格差(貧困)、どれを考えても、公共はより充実させ、大きくする必要はある。しかし官の肥大化はよくない。

・ 民の主体を豊かにすることによって公共を充実

・ 市民もサービスの受益者から担い手に(市民セクター)